

在特会の論理（9）

——「創価学会をつぶす」動画に引き込まれた I 氏の場合——

樋口直人

（徳島大学総合科学部）

Logics of *Zaitokukai* Activists (9)

The Case of Mr. I

HIGUCHI Naoto

University of Tokushima

1. 問題の所在

在特会が注目される背景として、それが日本で初めて排外主義に特化した運動であったことに加えて、インターネットを活用したという手法面の新しさを指摘できる。在特会が「市民の会」を名乗っていることに体现されるように、行為レパートリーなどは左派の市民運動の模倣である部分はある。だが、インターネットの活用を梃子にして勢力を伸ばしたことは、新しい運動のあり方を示すものといえる。その結果、在特会に連なる運動を主導してきた 1 人たる瀬戸弘幸氏は、「インターネットの普及によって、愛国心は急速な高まりを見せてきました」（瀬戸 2007: 346）という。インターネットの普及によって「愛国心が高まった」という説は、実証的には恐らく誤りだろうが、インターネットがなければ在特会が台頭することはなかったのは事実だろう。

それは、「既成のマスメディアとネットメディアにおいては、完全に乖離」（瀬戸 2007: 4）というように、ネットが作り出す局域の世論が社会全治と著しく乖離していることによる。ネット右翼に対してネット左翼という言葉がないことが体现するように、ネットの世界は右派的な言説に圧倒されている。この含意はいろいろあるが、その 1 つとして右派の作戦勝ちという側面を挙げることができる。右派がネットを主戦場として力を注いだ結果、それを軽視していた左派の間隙を縫う形で労せずネットを占領した——こうした要因はあるだろう。ネットを主な活動の場とする左派

の活動、ネットを主に意識して動画配信を行う左派の活動は実質的に存在しない。

これは、左派と右派の市民運動の動員構造の相違となって現れていると思われる¹。左派は、多少の変化を遂げつつも現在に至るまで対面的なコミュニケーションに依拠した勧誘を行っている。右派は、在特会にみられるようにインターネットの不特定多数に向けた情報発信に特化しており、紙媒体でのニュースレターを持たない。これは、従来型の市民団体とは大きく異なる点であり、ネットユーザーだけに特化した広報活動を行うのであればきわめて効率的といえる。ニュースレターの発行には印刷費や発送費がかかるし、にもかかわらず特定の会員にしか情報が届かない。紙媒体にはビジュアル情報をほとんど掲載できないため、入れられる情報のバリエーションにも限界がある。誰にどのようにしていかなる情報を提供するのがもっとも効率的なのか。そうした「動員の技術」（Oliver and Marwell 1992）という点でいえば、在特会を初めとする排外主義運動は「技術革新」を成し遂げたといってもよい²。

¹ 動員構造については、McAdam, McCarthy and Zald (1996)を参照。

² これは、筆者がかつて調査したアムネスティ・インターナショナルの「動員の技術」とは対照的である（樋口 2004）。アムネスティは、日本の市民団体ではもっとも洗練された動員の技術を持つところの 1 つであり、マーケティングの専門家による寄付や会員の募集も行っている。しかしそれは、一定の階層的条件を備えた

インターネットという新たな動員構造を排外主義運動がいち早く活用したのは、それが対面的なコミュニケーションに依拠できる基盤を持たなかったことによるだろう。左派の市民運動は、担い手の世代交代に苦しみつつも過去の運動のつながりという遺産を活用してきたがゆえに、組織が存続する程度的人员は確保できた。それは皮肉なことに、インターネットの活用という点で著しく出遅れることとなり、それにより動員しうる潜在的な支持層が「右」に流れる結果となったのではないか。排外主義運動は、自らの基盤の脆弱さを理解していたがゆえに、ネットを活用するしかなかったともいえるが、それが短期間での勢力拡大を可能にした。

もっとも、インターネットを通じた勧誘がどの程度持続的に可能なのかについては、あと5年程度の推移を見なければ結論は出せない。実際、在特会に対する支持は不安定なものであり、関連団体も含めて動員水準は、2010年のピーク時と比較して著しく低下した。これはインターネットという社会的誘因を与えにくい動員構造の特質なのか、逮捕者を出すような組織上の失敗が原因なのかはわからない。ただ、排外主義運動が新たな動員構造の研究対象として価値があることは間違いなく、その特質を明らかにする必要があるだろう。以下で紹介するのは、2011年6月21日にI氏(30代男性)に対して行った聞き取りのまとめであるが、運動の戦略に関しても言及しており本稿の問題の所在と関連している。

2. 政治に対する関心

政治に微塵も興味ないんですよ。だから国会議員の名前10人挙げろといわれたら結構難しいですよ。よく名前を聞く人とかそんなのくらいしかわからないですね。逆に自民党信者になっちゃって、こっちの活動やっている人で、自民党のやることは何でもかんでも正しいということで、自民党マンセーしている人たちいっぱいいるんです

地域を対象とした郵送での勧誘であり、古い「技術」であることは否定できない。別の団体では、グリーンピースがメディアの耳目を引く直接行動を展開することにより、マスメディアを通じた広報戦略をとっていた。が、在特会は自前のメディアを用いる点でそれとも異なっており、マスメディアが取り上げるのを躊躇するヘイトスピーチがマイナスにならない。

けど。

結局、今の日本を作ったのは自民党じゃないですか。だからそれを今後も続けたいのかな、と思いますよね。今、売国法案と業界で言われているやつで、やっているのはほぼ自民党ですからね。最近ちょっと民主党がさらにひどいを出してきて、さすがそれはまずいぜと言っているのも自民党なんですけど。だからといって今までやってきたこともそうだし、というのであんまりよく言う「誰がなっても変わんねえや」ってことですよ。だから政治家なんて利権とくっついて金もらったらそれでできない、パチンコ問題が正にそうじゃないですか。

政治家の人があんまり有名じゃない人であっても、国会の中で「朝鮮人がなんで日本にいるのか、今すぐ叩き返せ」って一言でもいえば絶対にニュースになって物議醸すと思うんですよ。でもそれをやる人っていないんですよ。結局、椅子がほしいままなんです。だからそういう人たちには、桜井さんも言うように、俺は期待していません。それは今も昔も変わらず。(選挙時には)自分が入れる時は調べますよ、ある程度は。ただその時だけしか調べないです。××(有名な自民党政治家)の本くらいしか読む気にならないですね。俺が今、総理大臣になってほしい政治家を挙げろといわれたら××ですよ。

選挙にはまあ普通に、〇〇出身なんで「××」って書きに行ってますけど、俺の時代は××って(引退して)いなかったの、とりあえず自民党に入れとけといううちの爺さんの教育の通りに(入れていた)。100%行けたわけではないですけどね。仕事が、たとえば忙しい時には事前(不在者投票)も行けないときとかもやっぱりあったんで、80%くらいですね。

3. 外国人との接点

俺がこの問題に、朝鮮人問題に興味を持ったきっかけをお話するとですね、仕事でヤクザの組に行っていたんですよ³。さんざんばら嫌な思いをさせられて、途中でその組長が朝鮮人だって聞いたんですね。何で日本人じゃないのにヤクザの組長なんかやっているんだろう、というのを一瞬疑

³ 販売業で、団体顧客としての暴力団相手の営業を行っていたという意味。

間に思ったんですけど、そこから何年も、特にそこから進展もなく、一緒に働いている在日朝鮮人の友だちもできて、何で日本にいるのかなあと。全然うちの方は朝鮮問題の教育とかはなかったんで、全然、普通に外国人が来ているのかなというくらいに思ってたんですけどね。で、それでいろいろと聞いたら、朝鮮の組長がそういう、さんざんばら嫌な思いをさせられた方が、そういう経緯で日本に来ているというのを聞いて、「あれ、おかしいぞ」というのがことの始まりですね。

（学校や近所には）全然いないですね。だから初めて朝鮮人として認識したのが、22、3（歳）くらい。（それ）まで、朝鮮人がそんなに日本にいるっていうのを知らなかったんですよ。興味もなかったし、韓国なんていう国が。多分日本のほとんどの人が10年前に韓国に興味ありましたか、って聞かれたら今ブームになったから知ってるよという人ばかりだと思うんですよ。そういう意味では政治に興味はなく、圧倒的大多数の「別に選挙なんか俺には関係ない」という人間の一人ですね。

（働いていたのは）ばりばりの堅気の会社なんですけど、その堅気の中でもヤクザのシマがあって、うちの会社2つの組のシマのかぶっている部分だったんですね。だからこっちの組も来る、こっちの組も来るというところでもないところで、2つの組がいたり来たりだったんですよ。そういうのでさんざんばらいやな思いさせられて、人までそういうのだというのが、「ああそうなんだ」というのがきっかけです。そうですね。10年くらい前。その時は別に朝鮮人がいやなんじゃなくて、ヤクザがいやなんですよ。

4. 「行動する保守」との邂逅

それが大前提としてあって、自分がこういうの存在を知ったのは、瀬戸弘幸さんってご存知ですか——瀬戸弘幸さんの前々回の参院選に立候補されたんですが、その瀬戸弘幸さんの参院選の立候補されたときの街頭演説の動画を見て、「創価学会をつぶす」発言をばんばんやってたんですよ。で、自分の友だちが創価学会の創ってかいて「創」という名前だったんですよ。そこのおばさんが、ガチガチの眼がいつちゃっているタイプの人で、勧誘するためには一切手段を選ばないというような人で。

子どもにとってたとえば、特上寿司とラーメンといたらラーメンの方がご馳走じゃないですか。で、俺は家で寿司とか普通に、うちの親が握るタイプの人なんですよね、ばあさんの実家が魚屋で、普通に魚には困ってなかったんですけど、普段食えないラーメンというご馳走をエサにですね、そのおばちゃんに『聖教新聞』の読み合いのイベントに連れて行かれて。というのが結構頻繁にあったんですね。それを一つの事案として、あの子と遊んじゃだめよという家だったんですけどね。で、それとは別に親戚のおじさんの嫁がまたがちがちの学会員で、天井まであるようなでっかい仏壇があるような家だったんですけど、そこのおばちゃんの所に遊びに行くと、「夏休み東映まんがまつり」に連れて行ってくれるんですよ。それで、「東映まんがまつり」を見る前に、大勢の体育館みたいな広い部屋で、大勢の背広の大人たちがうちと違うお経を唱えているやつを、一緒に知らないお経を唱えさせられる。その苦痛の行事を我慢すれば、『プロゴルファー猿対メカゴルファー』が見れるわけですね。

そういうのを楽しみに、いやいや我慢してそれをある程度の歳になってきて、もう「東映まんがまつり」もいやとなった時に、拝みに行くのがいやだから今年はいいいという話をしたら、うちの親は拝みに行っているのを知らなくて、それ以降ぱたっとその家には行けなくなっちゃって。仕事の都合でその近くに住んでたら——住めば通勤楽だったんですけど——その家に呼ばれるからというので、わざわざ1時間以上離れたところじゃないと家の許可が出なくて住めなかったというのがありまして。さらに仕事が終わって終電で駅に着きました、それで駅に着いたところでわらわらと日蓮上人について素晴らしい素晴らしいと語りだす奴に——最初1人だったんですけど——1人増え2人増え最終10人くらいに囲まれて警察沙汰になって、というのがあって。それがきっかけで、創価学会があんまり好きではないんですけどね、それで瀬戸さんの動画を見て「そんなすごいことを言ってもいいんだ」というのを気がついて。それから〇〇さんを見て、桜井さんを見てという感じです。だからもう、前々回の選挙のときだから今からすると5年くらい前、ですよ。前々回の参院選（2007年）。

それが原因です。休みの日に——確か昼間に見

てたから休みの日だったと思う——休みでも仕事が終わった後でもいいんですけど、日本語動画で見たら1位になっている動画があって、そこに「創価学会をつぶす存在」みたいなタイトルがあったんで、「何だこれ？」と思って。「あんなところにけんか売ったら殺されるだろう」と思って。当時は創価学会がそういう犯罪やっているとかっていう知識はなくて、単純に嫌な奴らという程度だったんですよね。で、それでまあ「何だこれ」と思って、それがきっかけです。

瀬戸さん見てたら、一緒にやってる〇〇さんの動画もあって、こっちも面白いなあと思って。〇〇さん見てたら数寄屋橋でやってる動画とかもあって、そこからちょっとすると□□さんやら桜井さんやらも外でしゃべるようになってきて、という感じですね。月に1回2回くらい休みの日に半日動画をみて、という感じぐらいでしたね。

多分ですね、「面白い」をメインで（動画を）見ている人ってそんなに多くないと思うんですよ。面白いだけで見ている人って。単純にエンターテイメントとして楽しむだけで見るとしたら、他にもまだあるじゃないですか。テレビなり何なり、お笑い一般なり。その、自分の気になりだした問題に対する話をしてくれるのを聞きたくて、デモ行進の歩いているところとかは、ほぼどうでもいいんですよ。なので、マイクでしゃべっている人がどういう問題があるっていうのをどういう切り口で言うかというのが、気になるところですよ。

だから、普通にエンターテイメントとしてお笑い番組として見るというのは、襲撃が来る時のデモ行進とかであって、普通に演説系のやつを見るときは、楽しいって見ている人ってそんなにいないと思いますよ。自分としてはですけど。他の人はどうかかわからないですよ。それで言っている内容が、たとえばリチャード・コシミズみたいにFBIがとかそういう素っ頓狂な話をしていたら、多分誰も見ていないと思うんですよ。ああまた始まったって。それを信じていっちゃう人はバランス感覚のない人たちだと思うんですよ。なので、俺はまだリアリティのある方がいいですね。

（「外国人問題」に関心を持つ）それ以外のきっかけは、思いつく限りないですね。存在自体知らなかったですからね、参政権も。その前に外国人が日本にそんなどっさりいるというの知ら

なかったんですよ。（関心を持ったのは）それはあれですよ、演説聴いて興味を持ったからですよ。多分、雑誌の人が喜ぶ表現をすると洗脳されたからですね。動画を見て。興味を持ったきっかけになったですよ。俺、多分かなり特殊なほうだと思いますよ。誰にでも当てはまるパターンではないです。たとえば、ワールドカップ日韓同時開催って後々考えたら、そういえばなんかおかしいくらい感覚ですよ。当時は。何で、他の国、一国でやっているのに今回だけ日本と韓国でやっているんだろうという感じですね。拉致も自分には関係ないと思ってましたからね、ずっと。大多数の人と同じですよ。

『嫌韓流』を読んだのも大分後ですよ、ちなみに。半年とか1年とか後じゃなかったかなあ。古本屋で100円で売っていたから、ああ見てみようという程度のものでした。だから、よく皆様の想定してらっしゃるような「漫画『嫌韓流』を読んで」「2ちゃん（ねる）みて」というのは俺には全然当てはまらないです。2ちゃんねるも、日護会の関係で最近電波板だけ見ているだけで、他は見えていないですからね。書く（ネットに書き込む）こともほぼないです。

5. 在特会への参加

《参加の経緯》

元々ミクシィの前はGREE やっていて、GREE は会社の人がやっていたんですよ。会社のヒトとやっていて——ああそうだ、参加するきっかけになったのは、△△さんとミクシィで知り合って。一般の会社とかも普通にしている△△さんが在特会の運営をやっている、というのをみて、一般の人でもできるんだというのが、行ったきっかけの1つですね。初めて（知ったの）は△△さんですね。それ以外のミクシィやGREE やら、最初はGREE ですね。GREE のほうで一緒にやっていた系の人たちとは、今も交流ありますよ。今も。

ネットで見ると、反対意見の人たちと議論を続けるというですね、あっち側の反対意見のほうの意見のスジが通っていないんですよ。人権守るためなら何人殺してもいい、なんていう人がいますよね。で、犯罪者の人権守るためだったら被害者の殺された人の人権を無視していい、という弁護士とか普通にいますからね。GREE の方だと、いつだったかな、だいたい特会とか××さんとかそ

の周辺のだったはずですよ。（元から入っていて、そのコミュニティに加わったということか）そうです。それで見つけて行きだしたって感じですね。ミクシィはその後ですね。

（デモなどに参加するのは、ここ）2、3年くらいですね。瀬戸さんたちのビデオをみてから2年3年あったと思ったんですよ。それまでは家で見ている一視聴者の1人ですね。コメントはあまりした覚えはないですね。普段から今も知っている人が何かやっている時に挨拶したりとか、そんな感じですね。酔っ払って気持ちよくなったときに、部屋で1人でコメントしたとかはありますけど、普段はあんまり書かないですね。

初めてデモに参加したのが、4月11日カルデロン・デモ、あれが一番最初なんですよ。（在特会の会員になったのは）そこ（蕨デモ）のあたりですよ。直前とかだったんですよ。だから会員番号5千いくつかですよ。で、それまで東京でやっているのとかも行こうと思えば行けたんですけど、大体仕事とかぶっちゃっていて、それで土日に行って「ああこの回なら行ける」というので、それで参加。行くときには自由参加なので、やりますという告知がホームページにされているので、「よし行こう」と。初めての人もだいたいそうですよ。逆に、行きますよと報告する口がないですね。俺も一番最初の蕨の時は、始まる30分前に駅に着いてたんですね。で、それで〇〇さんが準備しているのを見て、「うわっ、〇〇さんだ」って。「動画で見てる人だ」っていうのはちょっとありましたよね。

デモというか、そういういわゆる政治的な活動というのは全くの初めてですね。他にも一般の人たち大勢いますから（強い抵抗感はなかった）。それ（強くはないがためらい）もあって、初めて参加するのに2、3年あったということですけどね。たとえば、いきなり初参加で演説をマイク渡されてしろうたってももちろんできるわけじゃないですか。だから最初はデモ行進の一参加者として、そのときは俺もでっかいトラメガを持って歩いていましたから。持ってくれる人いませんかっていうので。

初参加者のやつで、しかもその時、襲撃にあっているんで。主な人たちはだいたい××さんの車で蕨の警察に行っちゃったんで、懇親会とかも特になく。その次、直後というわけではないのです

けど、確かその翌週か翌々週くらいに、〇〇市長糾弾街宣か何かがあったんですよ。そこで初めてビデオ撮影をしたんですよ。ビデオはもともと趣味で持ってたんで。勝手に好きなだけみんな撮っていいよ、という状態なんで。そこからもう、行ける時には100%に近い状態で参加ですね。マイルも10万マイル貯まっていたのを、1年で飛行機代で全部使い果たして。クレジットがゴールドで、普通に使っていればそのくらい。飛行機も仕事で飛んだりしますんで。

（参加に対して）別に悪いことしているわけじゃないんで、何の抵抗も俺にはなかったですけどもね。例えばそれが暴力団とか、過激派の——今回、昨日やった反原発デモ、日本中でやったじゃないですか——あれの裏で糸引いているのは中核派なんですよ。根拠なく言っていないですからね、中核派というのを。反天連とか中核派とか、その辺の奴らが——直接知っている奴らが——いるのを確認していますからね。そういう奴らの中核派とかがやっている奴らの方が、俺にはとても恥ずかしいし、犯罪行為に加担しているから顔を出せないですね。あつちは。あつちのほうに参加するんだったらマスクして。昨日もいたって言ってますよね。顔にマスクして、マスクに原発、核のマークつけているような奴が——人（を）馬鹿にしますよね——そういう奴らはいっぱいいると思いますけど、そっちだったら俺はそもそも参加からしないですけどね。

ここ何ヶ月かは、仕事が忙しいのとお小遣いが足りないのとので、参加の頻度がちょっと減ってるんです。東京まで往復するのに5000円するんですよ、うち。さすがに月4回2万円プラス懇親会行くと3万4万かかっちゃうんですよ。ちょっと家のローンの返却に支障が出始めて来たので、家のローンと車が壊れて買い替えしたんで、そっちが今ダブルで来ちゃっているんで。ちょっと今あと3年、4年くらいは家のローンを払っちゃいたいなところですね。あと4年くらいでローンを払って。（随分早いんですね）安いです。月々4万、ボーナス20（万円）であと4年ですね。

（往復5000円かけてまで行くようになったのは）何となくですね。ノリで。特に最近はやっと小遣い困ってますけど、当時は何にも困ってなかったです。よく在特会の活動やっている人たちは、社会の底辺で虐げられて、危機感を持っ

て、さっきおっしゃってた話される方が多いんですけど、俺がみる限り虐げられて危機感を持って死にそうな人はあまりいないですよ、普通に生活して。バランス感覚がない人たちの中には、いっぱいいますよ、生活できてない人たちが。でも大半の人は普通に生活してます。一部のその、ちょっとピントがずれてらっしゃる方々が目立つ、いっぱいいるという意味じゃなくて、目に付くというだけですね。インパクトが強いというか。そういう人たちをもって全体を語られる方が多いですね。

運営（幹事）になって、たとえばディズニールンド好きな人って年間パスポートを買うとするじゃないですか。年間パスポート買ったら行くのが義務になりますよね。行きたくなる。そんな感じですよ。俺、年パス（ディズニールンドの年間パスポート）持ってたときと感覚近いと思いますよ。たとえば家で寝ころがっていたとするじゃないですか。それでどンドンおかしくなっていったら嫌ですよ。自分がやらないで人にやってもらうっていうのは、結局ね、何もしない。それだったら自殺したって構わないわけですよ。生きている意味がないということですよ。おかしいと思ったら、文句言うなり良くしようとするなり、それが普通だと思うんですよ。

（活動を持続させるのは）動画の力ですよ。動画でこんな問題があるっていうのを見ると、気になって調べるじゃないですか。そうすると何だこりゃってなってきた、それをたとえば、今それが始まったばかりで他の人がほっといて勝手に何とかしてくれるんなら、何にも俺、気にしないんですよ。他にやってくれる人がいないからやっているだけであって。だから俺としてはこの活動を一生頑張っ続けていこうという気はさらさらないんですよ。他の人たちがもっとやってくれば、俺も楽できるんで。だから地元の皆様ががんばってくれて、こちらの方を盛り上げてくれるから、俺も最近は何回行かなくても良くなってきてるし。今までは動画撮影生放送をやってたんだけど、代わりにやってくれる人ができてくれたから、俺も今は別のこともやってるし。という感じですよ。だから、できる人、やる人をいっぱい増やす、後進の育成というのと、それくらいですよ。それが桜井さんの言うところの「すべてを巻き込む」、すべてを巻き込んで民意を変え

る、国民意識の変革というところにつながると思うんですよ。

（参加して楽しい、あるいは）いいからやっているわけじゃなくて、良くないから行っているわけですよ。良くないことに文句をつけに行っているわけですから。いけないことにそれはダメですよ、と言っているわけですよ。チーム関西がいつも言っているのは、「あかんもんはあかん」と。その通りだと思います。おかしいことをやっているから、「それは違うんじゃないんですか」と文句を一緒に言いに行っているわけですよ。

《参加してみたの印象》

特に激しく思ったのですね。たとえば、会社の友達と飲んでいるときのネタが1個増えたって感じです。遊びのネタ言っているのに加えて、シナ朝鮮問題のネタもぼろぼろと言うようになっただけです。至って普通ですね。

いつも動画で見てる時っていうのは、気がついたら始まって、気がついたら終わってますよね。その前段階で何週間も前から事前調整したりとか、横断幕作ったりとか、そういうのがあっているのはギャップですよ。だからマイク持ってしゃべっているだけが活動じゃないっていうのは、すごい感じますよね。

（本人が望まなければ）マイクを持ってしゃべらないのは全然俺はいいと思うんですよ。個人の問題ですから。だから、いつも桜井さんが言っているのは、できるときにできることをできるだけやってもらえればいい、とすべての人に言っているんですけど。そういうのを俺もここ1年くらいはできたからやっていたんであって、できなくなってきているここしばらくはちょっと参加頻度も減っているし、あんまりできないよと。で、平日も仕事忙しいから、なかなかできないというので、それで文句言ってくる人っていうのは今のところいないですし、言ってくる人というのはバランス感覚がない、活動以外に趣味もない、活動以外に生きる意味のない人たちですよ。俺はさっき、生きている意味がないと言ったのは、活動以外にもそうですからね。すべてのものに対して。そのときに自分が必要だと思ったことやらないんだったら、生きている意味がないんじゃない、ということですから——と思います。

《関心があること》

主に朝鮮やらチャイナやらの特定アジア問題ですね。悪いことですね。俺判断で悪いことを率先して取り上げたいです。たとえば今回のパチンコ。（筆者のテーマからすると）外国人参政権の話がいいですね。外国人参政権の話だとすると、今回、地震でガイジン大勢逃げましたよね。一気に街からガイジン消えましたよね。そういう方々に選挙権を与えて日本の行く末を左右させるのはいかがなものなのか、ということはすごく思いますよね。で、しっかりした日本に根を張って、日本のために日本人と一緒にがんばろうというガイジンの方、そういう人たちだけならいいと思うんです。選挙権も。ただ、それだったら今簡単に帰化できるのだから帰化しちゃえばいいんじゃない、と思うんですけど。そうすると相手側からアイデンティティがどうのこうのといいますけど。でも国籍変えれば変わるようなちんけなアイデンティティなら、いらねえんじゃないかと思えますけど。

（参政権を取り上げたのは）在特会だけじゃなくて、こっち側の陣営がみんなで行っていることですから、在特会が取り上げているわけではなく、いたるところで話を聞いて「これはおかしいな」と思ったからです。選挙ってというのは、その国の行く末を左右することですよ。それを、その国に対して責任も義務も負わない人たちが、権利だけ要求するっていうのはおかしいと思うんですよ。

今回韓国で選挙権を持っている人何人いますか、日本人で。外国人参政権通ったら、参政権を持つ——今日本人限定で韓国の話したんで、朝鮮半島出身、今あそこの半島には日本と国交のある国家は韓国しかないですよ。だから、（日本で）韓国朝鮮人合わせて朝鮮人の選挙権を得られる人間っていうのは、人数としては60万人くらいいて、年齢20歳未満を考えるとだいたい40万人くらいかなと個人的に思うんですよ。外国人参政権を何にもしないで得られる人。じゃあその人たちの40万人は、選挙の権利を持つのにに対して、50人しか持っていない。じゃあなんで50人かという、50人しかいないわけじゃないですよ。税金、日本でいうと1億だか2億円以上納めていて、というしぼりがいっぱいあるじゃないですか。（事実誤認を訂正）じゃあ永住するための条件は

規制緩和されたんですか。（韓国の制度について説明）じゃあちょっと話を戻しますが、日本人がぱっと行って、選挙をとるには永住ビザを取らないといけないんですよ。永住ビザをとるための条件がそれなんですよね、何億円以上という。（事実誤認を訂正）じゃあ今、向こうで50人くらいしか選挙権持っている人がいないってどういうことなんだろう。（現状を説明）

在特会は極右といわれましたけど、極左とも思っています。わかります？ 差別に徹底的に反対しているんですよ。朝鮮人問題という点でいうと、他の外国人に対する差別ですよ。朝鮮人にだけ特別待遇を与えるとかって。それは他の人、朝鮮人も他の外国人と一緒にしなさいよという、なぜか差別といわれるんですね。他のところも、たとえば今、部落解放同盟とかでやったりとかしていると、それも「おかしなことしちゃダメよ」という差別といわれるんですよ。朝鮮学校も無償化するって言ってますよね。で、他の外国人学校とかもやったりやってなかったり、朝鮮学校と同じ教育形態である教習場とかは無償化されないのになぜか朝鮮学校だけされると。そんな差別よくないからやめなさいという、なぜか差別といわれる。

今回の外国人参政権もそうですよね。等しく外国人には日本のことに口出しをする権利はないですよ、という風に基本言ってますので、「永住権を持っている人だけ特別に、それ差別でしょ」って。外国人なんだからすべてダメという、なぜか朝鮮人差別っていうんですね。基本的に、日本人と日本の国に対して義務と責任を持っていない外国人は、差があるのは当然だと思うんですよ。なので、そこのところで他の外国人の方々が日本のことを良くしたいと思って、日本人と一体になって頑張りたいんだったら、国籍を取得する。それに対して俺は文句一言も言っていないんですよ。だから他の外国人いっぱいいるなかで、朝鮮人が自分達だけ特権がほしいといっているからふざけるなといってるんですよ。それがどこでどう差別になるのかはちょっとびんと来ないんですよ。

《得られたもの》

大勢のいい人たちと知り合えたってことですよ。金なんかもちろん出て行くばっかりだから。

入ってくるのもないし。で、たとえば具体的に「これだ」というすごい実績も、我々だけで作っているわけではなく、実績というのは意識を持っているみんなで共有するものだから、俺1人が占有するものでもないです。かといって在特会がすべてやったんだ、というわけでもないじゃないですか。だから別に実績がどうこうというのは、あんまり俺、成果とか気にしないんですよ。なんで、当たり前前は当たり前にやるだけ。だから、世間の考え方が変わってこっちに対する文句——意見、お小言、感想、一言で言えば悪口ですけどね——をいう人たちだって、もともとは興味を持ってた人たちだらけじゃないと思うんですよ。

(変化したことは)自分で意識して——狂った人とかを多々見てるんで——ああいう風にはならないようにするために、いつも自分を見直ししてるんですよ。だから、変わったなというところは役職について発言に対して気をつけるようになったぐらいかな。と思います。下手なこと一言言うと、それでおかしなのが食いついてくるんで、普段からそういう風には前々からしてるんで、そんなに激しく変わったというのはあんまり自分としてはないです。ありのまま。たとえば俺は暴力的な発言とかが嫌いなんで、自分ではいつもしません。それは継続でやってます。それは当たり前前のことを粛々と、自分にとって当たり前のことですよ、とやっていくわけですね。

6. 組織の運営

《組織間関係》

ただまあ、人ってのは変わるもんだなと感じますね、最近。一緒にやってた時は仲良かった人でも、自分以外の人同士で喧嘩を始めちゃったりとかすると、結局、こっちはどっちとも仲良くやっても、そっちの人の絡みでやっぱりある程度距離をおかないといけなくなっちゃうじゃないですか。それで、というのが××さんのときにもあって、〇〇さんのときにも今あって、何でそんなにすぐ喧嘩するんだろうなというのは感じますね。

自分の持っているやり方と違うから、それはダメだよと言う人がいるんですよ。たとえば先週あったやつで、救う会のデモが5日にもものすごいやるって言ってやったのがあったじゃないで

すか。で、その第三挺団を在特会がやって、在特会がいわゆるチャンネル桜から言わせると、汚いことばを使っていたのが許せないということで、在特会を「寄生虫め」とチャンネル桜が今、罵っている状態なんですね。自分達とやり方が違うんだったら自分達の正しいと思うやり方をすればいいじゃないですか。それをなぜかこっちの方のことも攻撃し始めるんですね。

だったらそんなことする暇があるんだったら、救う会でその時やっているんだから、金正日のところ行って一発ぶん殴ってくるくらいをしてほしいですよ。で、みんなで仲良く歌うたって気持ちよくなって帰るだけでしょ、あの人たち。それで本当に救われると思っているのかな。それは1つのあくまで例ですね。そういう人たちっていうのは、たとえば先週の救う会の話でいうと、ほとんどの参加者は救うことが目的ですよ。そういう人たちっていうのは、我々に対して言うてくる言い方というのは、そんなのは美しい日本人らしいやり方ではないと、下品であると。ということはですよ、救えようが救えまいが上品にやればいいんですよ、その人たちは。それ感じますね。目的は救うことにないから、そういう外見のことばかり言うんですよ。で、そっちの汚いことばを使った方々は、何でもいから早く取り返せ、ということをお願いだけなのに、下品だ下品だというわけです。だからそういう目的を持ってやってない方々っていうのは、正しく言うと目的を自分を良く見せるためにやっている方々っていうのは、自分としてはちょっとどうかなと思います。

バランス感覚がない人が入ってらっしゃる方、結構いるんですね。バランス感覚がない方がそれを外に向かって吹聴するからめめているように見えるわけで、最初から一枚岩でももめることもなくやっていたわけじゃないですよ。ただ最初はバランス感覚を持った人たちが多くて、やり方が違う、意見が違う、その他なんかちょっとしたいざこざがあったら特に立つ鳥跡を濁さず去っていた人たちが、立つ鳥跡を濁しているだけなんですね。たとえば、今回東北の支部長がおやめになって日護会側についているんですけど、その人がやめた原因というのが、東京支部長——東北の支部長の前に支部長やっていた人が、幸福の科学のスパイであると言い出しまして。その人は在特

会にもぐりこむために、東北でいったん実績を作ってから東京に行くように幸福の科学の指令を受けてやっているんだと、言い出したんですね。それどう思います？ そんなアホがと思いませんか。

そういうウソを真に受けちゃう人たちというのが、こっちの側でも政治的な話のウソを広める人っていっぱいいるんですよ。それを情報の取捨選択をしないで、ネットで見たっていうので全て真に受けて吹聴する人というのはたくさんいるんですね。確認作業一切なしで。それがまあ、ひどいになるとツイッターのデマ騒ぎとかになりますよね。それと同じようなので、いっぱい飛び交ってるんです。

《注目を得るために》

最近、よく襲撃されることがあるんですね。暴力的に。たとえば「踊れコリア」とかってわかります？「おどれ、こらあ」といって胸倉つかんでくる奴がいて、それが「おどれ、こらあ」というのがなまっていて「踊れコリア」に聞こえるんですね。多分「踊れコリア」で調べると動画で出てくると思うんですよ。そういうのとか。まあそういうのは襲撃されているうちに入らないと思いますけどね。去年の1月24日だったかな、在特会の臨時全国大会から新宿の外国人参政権反対デモの時とかも、催涙スプレー持った奴に襲撃されましたよね。これとかは、襲撃犯とか知ってたんですよ、元から。ミクシィとかで存在は知っていたんで。

俺は身内だけの「そうだそうだ」と盛り上がって会話するよりも、敵対している人たちの間にこそ真実があると思うので、主に敵対している人たちとばかり話してたんですね。だから襲撃している人とかも、アンチ在特会コミュニティの管理人とかもよく知ってますよ。直接会ったことは3回4回くらいかな。まあ大体、どっかでやってる時にひょろっと現れたりとかそんな感じですよ。

実際暴力ってのはほぼないんですよ。向こうが襲撃してきて、というのしかないんですよ。こっちでいきなりぶん殴ったというのは、ほぼ知ってる限りないんですよ。そういうのさえ今後もない方向でやっていきたいなど。だから俺は、率先して止めるほうに回るために、デモ行進の時もデモ隊の真ん中にとか先頭にとかいて、やるよりも

行ったりきたりしてトラブルがないか、先に行っただけで待っているキチガイがいないか、そういうのを見るのを重点的にやっているんですね。なんで、この間のパチンコデモの時も、もめた時は率先してマイク奪って、「いいから進んでくれ」とやっていますね。一箇所に集中して大騒ぎしますと、事件屋さんたちが眼の色変えて寄ってくるんで。それでガツーンやっているとところをビデオ撮ったら、あっちとしては大喜びですからね。

うちは、やられたところはビデオ撮りたいんですけどね。「また襲撃された」と。で、時々あの反日役をやっている人がいるみたいなことを書く人がいるんですけどね。自作自演で毎回反日役をローテーションで用意するなんてできないですよ。ほっといても勝手に狂った奴が突っ込んでくるんで。今回も〇〇ってわかります？ 〇〇が反原発デモ、昨日やったやつで右翼と一緒にやることはできないって言って大騒ぎしていたんです。もう、本来の目的よりも自分が大事なんで、右翼と一緒にできないと。ゲバルトとかもそうですし。そういう奴がちょっと餌まくと食いついてきますからね。もう、我々の言っていること全てが、奴らにとって餌なんですよ。なんで、勝手に襲撃されたり、本当は襲撃されるのは嫌なんですけど——こっちも捕まる人が出ちゃったら大変じゃないですか。

特に、ネット系の方でしか（知名度が）やっぱりまだないんですから、それがもうちょっと世間に広がってくればいいんですけど、それを広めるには前回パチンコ禁止デモ全国でやったんですね。自分は地元と一緒にやったんです。他、日本中全部で7箇所くらいでやりましたけどね。話題に出ているとことというのは、だいたいもめたところなんですよ。向こうが突っかかってくるころ、とかなんで普通にね、当たり前のことを当たり前姿勢正しくして綺麗に言っているというのは、一切話題に出ないんです。それで、やってる意味としては薄いですよ。

だから、それもすごい重要なんですけど、人の目を集めるにはどうするかって考えると、ちょっとそこどころがもめた方がいいのかな、というのはあるんですけど、もめてばかりだと一般の人参加できなくなるから、会の中でもめてる地域と粛々とやっている地域とある程度区分けが必要だと思うんですよ。それで自分は、××と

一緒に粛々とありのまま正論を述べる、ということで他の「過激なところには行きたくない、でも参加はしたい」という人が行きやすい所を作りたいなっているのはありますね。今のところ××で、過激で暴力振るう人はいないですからね。で、政治家の先生が、たとえば過激なところと粛々とやっているところだったら、粛々とやっているところに行きますよね。俺としては政治家の先生には、個人では興味を持ってないので、ここは支部長に全部政治がらみのやつはお願いしちゃってあるので、支部長に任せているという状態ですね。

《社会統制》

東京でやる時っていうのは、何で公安の人が20人もいるかっていうと、東京、千葉、埼玉、神奈川、どさっと来るんですよ。1つの県で3人来ると、そういう風に多くなっていくだけであって、実質としては全部が全部申し合わせてさあ20人というわけじゃないんですよ。あの日聞いているだけでも、千葉と神奈川と東京は来てました。埼玉はちょっと確認してなかったんですけど。

(気にならないですか) 気にならないですね。我々捕まえにきているわけじゃないですから。それ以上やると捕まっちゃうから、これくらいでやめてねって言うているわけですから。見張られたって、それはあっちのお仕事だから。公安の人たちは、どっちかっていうと公安の一課二課三課ってあるじゃないですか。うちにきているのはどちらかという、右の市民団体(担当)の人たちなんです。

その人たちは情報連絡はやりとりしていないんだけど、そこにいと極左が捕まえられるっていうんで、大勢来ているというのは左担当も襲撃に備えてきていて、なおかつ事件屋っていわれる部隊があってですね、何でもかんでも事件として立件して捕まえようとする人がいるんですよ。公安って。なので左担当と事件屋がいるからより人数が多くなっているんですね。その人たちは別にうちら捕まえにきている、事件屋はうちらも含めて捕まえに来ているんですよ、何でもかんでも捕まえられればいいっていう。だから、公安でわれ警察なりっていうようなベスト着て、ビデオカメラを三脚でこうやって持って構えている集団いるじゃないですか、あれが事件屋なんですけど。そっちの事件屋の人たちは、何かちょっとでも不

備があったら捕まえるぞっていうのは満々で来ているんで、あの人たちは正直いやですね。ただそういう人たち、終わったらすぐ帰っちゃうんで、別に関係ないですよ。

《右翼的なものとの間合い》

思想に関しては、今うちの会長が日本中をまわって講演しているんですよ。今日その最後やってるんで、それを後でまとめてDVDにしようかって話をしてるんですけどね。

で、右翼うちの決定的な違いは、たとえば運営支部長、副会長っていますよね。まず強制されて来ている人がいないっていうのと、嫌ならすぐに辞められるっていうのと、あとは他の一般の会員の方々、主な参加者——参加者の大体9割以上は一般参加者ですよ。そういう人たちにあなたは誰ですよという名簿もないし確認もしていないし。次(に)来なかったらまあそれはそれでうちの考え方、やり方に賛同していただけないからしょうがないよねっていうことで、そのあとしつこく何かしたりとかは全然ないんですね。なので、もし来れるようだったら皆さん来て下さいね、がスタイルなんですよ。だから、無理して参加することを強要していないし、来やすいというのがあるんですよ。だから人が減りだすと止まらないというのもあるんですけど。そこは今騒ぎの途中なんで。

護国神社、靖国神社の話ですが、俺はもともと神とか仏とかは基本、信じてない人間なんです。ただ、一神教はすべて邪教だと思ってるんです。ただ日本の神道はすべてのものが神様であると言ってるんで、それはすごくいいと思うんですよ。ものを大事にするという観点から。だから日本神道は基本的に否定するつもりはないです。たとえば、これは神様だけどこっちは神様じゃないっていうんだったら、それはおかしいなと思うんですけどね。すべてが神様だっていうんだったら、それはそれでその人が言っていることにおかしな点はないんですけど。それならお好きにどうぞと。

俺も家に仏壇と神棚が並んでいるような家で育っているんで、神社へのお参りは子どもの時からの習慣で普通にしているんです。で、日本のことを守るために戦ってくれた朝鮮人を含めた戦死者たち——まあそれも戊辰戦争からですよ。

——の方々が眠っているところなんで、それに日本を守ってくれてありがとうとお祈りするのとは全然悪いことだと思わないし、8月15日くらいはやりたいとは思いますが。

ただ活動を始める前は全然そういう意識がなかったんで、戦争はうちの爺さんが子どもの時にあった。だけどうちの爺さんはびんぴんしている、だから戦争は俺には関係ないと思ってたんです。だから、うちも地元の護国神社にごくたまーに行きますね。だいたい夜、散歩がてらという感じですけどね。靖国には8月15日に行ってますね。あとは何か行事があれば行ったりはします。たとえば会のイベントとして清掃奉仕ってのが出て、行ける日だったらいきます。ただ清掃奉仕だけに往復5000円かける気はないので、たとえば土日のどっちかに清掃奉仕があってその翌日に何か行事があるというのだったら、金曜日の夜のうちから入って事務所に泊まれるんで。事務所に金曜に泊まって、清掃奉仕して日曜日に帰るとか、そういうのなら全然行きますけど、それだけで出されるとちょっと行かないです。つまりその程度です。

在特会が右寄りの活動を義務化したことって何かありますか？ 俺、覚えがないんで。靖国どうのこうの。天皇陛下がどうされたとか、どうなさいたとか、全然ないっすよ。うちでやるけど、来るんだったら来てというスタイルなんで、全然清掃奉仕活動を神奈川支部としてやります、というので神奈川支部でやります、じゃあ行きましょうというのがあります。強制は一切してないです。

7. 結語に代えて

在特会のメンバーは、自らを「ヘイトスピーチを垂れ流す集団」とは思っていない⁴。特権許さまじという大義を掲げ、義憤にかられた人たちがデモ行進に参加しているというのが、メンバーの自画像になるだろう。それゆえ、I氏がいうように在特会のデモに対する抗議は「反日極左の卑劣な妨害」として、ネットの世界の中では自らの正統性を喧伝する材料となる。

ただし、こうした在特会の像に加えてI氏自身も創価学会批判にひきつけられた経験から述べ

るように、極右が「タブー破り」をする姿に快感を覚え溜飲を下げる側面は確実にあると思われる。合意争点でない限り、ある措置（カルデロン一家の長女の在留特別許可）に反感を持つ層は一定程度存在する。それは、「社会の底辺で鬱屈した感情を持つニートや非正規就労者」だけではない。そうした感情を表出する回路がないなかで、タブー破りをする極右の姿に喝采を送る層は一定程度存在するだろう。インターネットという安価な自前の通信手段は、そうした勇ましい姿をメディア映りを気にせず自ら配信することを可能にした。タブー破りが動員を可能にする側面は、日本社会の停滞や流動化、グローバル化のような大きな変化がもたらす不安と結びつくところもあれば、そうでない部分もある。これは、当事者の主張だけをみたのでは解明しえない。それゆえ、直接的な聞き取りによる冷静な分析が必要になると筆者は考えている。

文献

樋口直人, 2004, 「国際 NGO の組織戦略——資源動員と支持者の獲得」大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編『社会運動の社会学』有斐閣。

McAdam, D., J. D. McCarthy and M. N. Zald eds., 1996, *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge: Cambridge University Press.

Oliver, P. E. and G. Marwell, 1992, “Mobilizing Technologies for Collective Action,” A. D. Morris and C. M. Mueller eds., *Frontiers in Social Movement Theory*, New Haven: Yale University Press.

瀬戸弘幸, 2007, 『ネットが変える日本の政治』岩崎企画。

（付記）本稿は科学研究費補助金による研究成果であり、稲葉奈々子、申琪榮、成元哲、高木竜輔、原田峻、松谷満の各氏との共同研究によっている。記して感謝したい。

⁴ 現実には、EU 諸国にある差別禁止法を適用すれば、活動停止になるような水準だと考えてよい。